

長寿夫婦58組を顕彰 つがる市福祉顕彰式



福島市長から顕彰状を受け取る長寿夫婦

長年連れ添った夫婦を祝う「平成22年度つがる市福祉顕彰式」が9月2日、松の館で行われました。

今年は88歳到達者夫婦5組、ダイヤモンド婚夫婦（結婚60周年）20組、金婚夫婦（結婚50周年）33組が該当。福島市長は「皆さんの培ってこられた豊富な知識や経験がこれからますます必要となります。今後も地域のためにご指導ご支援をお願いします」とあいさつし、顕彰状を手渡しました。

また、式典後のアトラクションでは川除保育園としばた保育園の園児が歌や遊戯を披露し、出席した夫婦らは笑顔で拍手を送っていました。

交通事故を無くそう つがる市交通安全のつどい

秋の全国交通安全運動が9月21日から30日までの10日間展開されることに伴い、市とつがる警察署が9月17日、つがる市交通安全のつどいをイオンモールつがる柏で行いました。

つどいには、市民や関係者ら約150人が参加し、桜庭修地区安全協会長が「秋の行楽シーズンを迎え、日没が早まるこれからの時期は、夕暮れ時の交通事故や高齢者の交通事故が多発する傾向があるので、関係機関が連携し交通安全対策に取り組みます」と福島市長にメッセージを伝達しました。

またアトラクションとして木造北保育園の園児が日本太鼓演奏で会場を盛り上げ、柴田子供交通指導隊と館岡子供交通指導隊の隊員が「お酒を飲んだら絶対に車を運転しないように。ぼくたち私たちは交通ルールを守ります」など交通安全誓いのことばを発表しました。



元気に誓いのことばを発表する柴田子供交通指導隊

雨にも負けず元気に完歩 地域安全ウォーキング



ウォーキングしながら交通安全意識を呼びかける参加者

交通安全と防犯意識を高めようと第7回地域安全ウォーキングin車力が9月11日、車力地区で行われました。

この日はあいにくの雨となりましたが、ウォーキングには市内外から約290人が参加。村おこし拠点館フラットをスタート・ゴールとし、15キロ、9キロ、5キロの3コースに分かれて交通安全を呼びかけ、元気に歩き抜きました。

昼食には砂丘麦とろ飯やしじみ汁、しそジュースが振る舞われ、参加者は疲れた体を癒していました。また、お楽しみ抽選会も行われ、地元産のゴボウ、ネギ、カボチャなどの詰め合わせが当選者に贈られました。

英語で思いを堂々発表 西つがる中学校英語弁論大会



左から坂本君、天坂さん、吉岡君、小島君

中学生に英語を熟達する機会を与え興味と関心を高めようと第32回西つがる中学校英語弁論大会が9月2日、松の館で行われ、暗唱の部に29人、創作の部に10人が出場しました。

審査の結果、暗唱の部では坂本翔牙君（柏中1年）、天坂友美さん（森田中2年）、吉岡紘君（木造中3年）が、創作の部では小島瑤平君（柏中3年）がそれぞれ1位に輝き、吉岡君と小島君は三沢市で開かれる県大会に出場することになりました。吉岡君は「登場人物になりきって心情を伝えよう」と心がけた。県大会ではみんなの心に響くスピーチがしたい」、小島君は「柔道部の顧問の先生と一緒に取り組んだあいさつ運動をテーマにスピーチした。県大会出場となり身の引き締まる思いです」と感想を話していました。

川の水質を測定し水の大切さを学ぶ

水の大切さや、川や海を汚さない方法について学ぶ生活排水対策講習会が9月11日、松の館で開催され、市民38人が参加しました。これは県環境政策課が主催したもので、この日は環境マイスターの中根豊氏を講師に迎え、山田川の上流・中流・下流から採取した水のpHやCODをグループに分かれて実際に測定し比較しました。測定の結果、下流ほど汚れの指標であるCODが高く、家庭からの生活排水が原因となっていることがわかりました。参加者は、食器の汚れを拭き取ってから洗ったり、米のとぎ汁を庭木や畑にまいたりなど、ちょっとした心がけで、台所からの生活排水の汚れを減らせることを学びました。



パックテストを用いて水質を測定する参加者

2000人の歌謡ファンを魅了 上原げんと杯のど自慢大会



上/第31代チャンピオンの吉田正義さん

下/げんと碑にバラを献花する参列者



旧木造町出身で「東京の花売り娘」「港町十三番地」などのヒット曲を生んだ作曲家・上原げんと（1914～65）を顕彰して毎年開かれている第32回上原げんと杯争奪のど自慢大会の準決勝と決勝が8月28日、木造中央公民館で行われ、2000人を超える歌謡ファンが市内外から詰めかけ、熱唱を楽しみました。準決勝に出場した30組の中から10組が決勝に進出し、「花は黙って咲いている」を歌った吉田正義さん（青森市）が第31代チャンピオンに輝きました。今大会は特別審査員として「愛のままで…」を作詞・作曲・編曲した花岡優平さんが決勝を審査。ゲスト歌手の山内恵介さんのステージも行われ、観衆を魅了していました。

また、大会前には银杏ヶ丘公園で「上原げんとを偲ぶ会」が開催され、参列者はげんと碑にバラを献花しました。



農村の良さを発表し合う

第33回西北地域農山漁村女性のつどいが8月20日、松の館で開催され、西北地域の生活改善グループ約100人が参加して、「技でおいしく つがるのこたばでおもてなし」をテーマに農山漁村の活性化をめざした活動を報告し合い交流を深めました。

この日は、方言研究家・川柳作家の渋谷伯龍さんが津軽弁のルーツやエピソードについて講演した後、各地区の代表者が次世代へ伝える農とくらしについて意見を発表。四つ葉生活改善グループの八木橋りウ子さんは「花を植えたり、油絵を描くことを通して季節を感じ農村での生活に喜びを感じる」と花いっぱいまちづくり運動や絵画への思いを話しました。

わら焼きシャットアウト

9月16日、わら焼きの防止を呼びかける稲わら焼却防止巡回が行われました。市役所前で行われた出発式では、福島市長が「6月に県議会でわら焼き防止条例が制定されました。東北新幹線全線開業も間近となり、澄み切った秋の空や出来秋の風景こそ私たちの誇るべき宝。稲わらも資源として有効活用に努めてもらうよう呼びかけましょう」とあいさつ。続いてつがる市稲わら有効活用推進協議会の坂本清衛会長が「つがる市のお米のイメージダウンにならないよう、稲わらのすき込みや収集の斡旋に取り組みます」と稲わら焼却ゼロ宣言を行いました。その後、福島市長はじめ関係者が市内の田んぼを巡回しながら農家にチラシを配り、わら焼き防止を呼びかけました。



地産地消の料理教室

地産地消と食の大切さを学んでもらおうと市食育推進応援隊(原田ひとみ代表)が8月26日、トマト・キュウリの加工教室を松の館で開催し、9人の市民が参加しました。

教室では、講師のJAつがるにしきた女性部つがる支部の工藤カツ子さんの指導のもと、つがるブランド農産物のトマト、つがる市産のキュウリを使って、ミニトマトのシロップ漬けやキュウリの辛子漬けを作りました。また、トマトケチャップも作り、パスタにからめて試食し、地元の食材の美味しさを味わっていました。

「生きる力」育む体育・健康教育めざして

9月17日、瑞穂小学校で青森県小学校体育科教育研究大会西つがる大会が開催され、県内各地の小学校教諭ら約200人が参加し、体育・健康教育のあり方をともに考えました。大会では、瑞穂小学校の「わかる」「かかわる」「できる」の学習活動の工夫による各学年6つの提案授業が行われ、参加者は見学後、「器械運動」「ゲーム」「保健」の分科会に分かれて意見を交換しました。

また、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官・白旗和也氏が、平成23年度の新学習指導要領の完全実施に向けて「生涯にわたって未永く運動に親しむ人を育成する」という目標のもと実態把握や指導計画の作成の必要性などについて講演し、参加者は熱心に聞き入っていました。



ジュニアオリンピック陸上競技全国大会出場

第41回ジュニアオリンピック陸上競技大会県予選会で、木造中学校女子陸上部3年生の志津野汀さんが100mで1位、山下愛さんが200mで1位、大屋舞夏さんが200mで2位の成績を修め、志津野さんと山下さんはそれぞれの競技で、大屋さんを含めた3人はリレーの県選抜メンバーとして10月に横浜市で行われる全国大会に出場します。志津野さんは「全国大会では自己ベストを出したい」、山下さんは「精神的な部分を鍛え、雰囲気にもまれないようにする」、大屋さんは「苦手なスタートダッシュを練習してがんばる」とそれぞれ抱負を語りました。

同陸上部は、県中学校総合体育大会陸上競技で1年生の工藤紅音さんを含めた4人で学校対抗の総合優勝を果たしています。(写真：左から志津野さん、大屋さん、山下さん、工藤さん)



小学生相撲全国大会出場報告

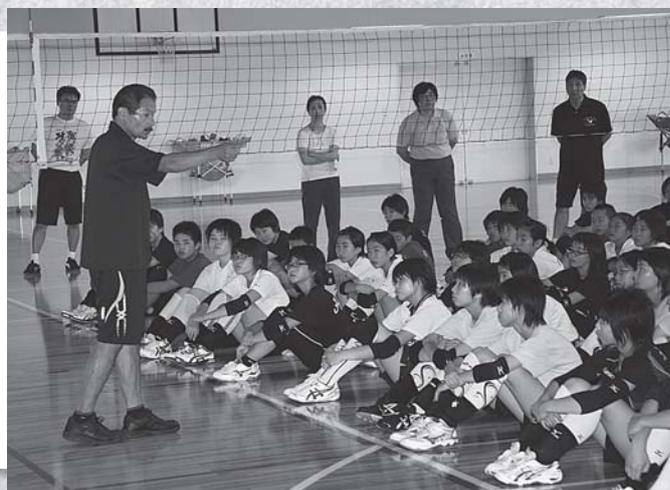
8月20日に福島県会津若松市で行われた第23回全日本小学生相撲優勝大会東北ブロック予選会で好成績を修めた越後谷知樹君(瑞穂小6年)、田中界渡君(向陽小5年)、菊地新君(同小4年)が8月31日、市役所を訪れ、大会の成績と全国大会出場を福島市長に報告しました。

予選会では、越後谷君が優勝、田中君が3位、菊地君が2位の成績で、同日行われた第29回東北学童相撲大会でも越後谷君が優勝。3人は12月5日に両国国技館で行われる全国大会に出場します。

(写真：左から越後谷君、田中君、菊地君)

バレーボール名監督の指導受ける

バレーボールの技術向上や指導者の育成を目的に、8月29日、柏総合体育センターで、つがる市中学生バレーボール教室が行われ、市内外の中学生や指導者ら約150人が参加しました。講師には全国中学校バレーボール選手権大会で4回優勝に導いた岡田隆安氏(前・長野市立裾花中学校教諭)を招き、基本動作の身体の使い方や新しい考え方を取り入れた指導方法などについて実戦形式を取り入れながら幅広く学びました。参加者は岡田氏の一言一言に耳を傾け、バレーボールの総合的なレベル向上を図りました。



園児と児童が手作りゲームで交流

幼・小連携活動の一環として車力幼稚園(工藤恵子園長)の園児22人と富沼小学校(齊藤斉校長)の1年生26人が9月2日、富沼小学校で交流会を行いました。

1年生の松橋奈穂さんが学校児童を代表して「私たちが作ったゲームで仲良くいっぱい遊んでください」と園児へあいさつ。交流会では児童が作ったボウリング、魚釣り、迷路遊び、宝探し、鬼退治の5つのゲームコーナーで園児らは楽しんでいました。

ゲームが終わると、園児たちは「とても楽しかった」などと話し、児童からは「幼稚園の子が上手に遊んでくれてうれしかった」と感想を発表しました。